제112호 1908. 11. 17.

（日曜祭日の翌日休刊）（第三種郵便物認可）　明治四十一年十一月十七日　京城新聞　（火曜日）　第百十二號（一）

京城新聞

●慶尚道 農商状況（八）
大邱（其二）

▲商況 昨年米豆の不作並に多少暴徒の影響を受けたるが春來輸入品等の賣行頗る不振にして殊に日韓商人の期待せる韓盆祭に際しても取引兎角捗々しからず昨年の約八歩方の賣行に過ぎざりしと推測せらるゝも今や本年は一般に十分豐作の見込なれば人氣の恢復を見るも亦遠きにあらざるべし

▲通貨 當地は市中取引の大部分及日韓間に於る商取引等に多く新貨を受授せらるゝも猶其半面に於ては葉錢の流通亦少からず又近年輸入諸雜貨類の賣行概して增大せられ其の大部の顧客は各地方村落の人民にして之等は多く葉錢を携帶し來るを常とす左れば葉錢の[illegible]からず是等は當地商人の米豆買入等に使用するの外遠く倭館及慶山等に輸送して同地方邦人の米豆買入の資として使用せらる

▲人氣 當地方は一般に人氣平穩日韓人間の交情良好なり

▲附記 數月前より贋造貨の混入せる葉錢の各地方より流入するもの多く百文中五文十文乃至數十文を混入せるあり素質は亞鉛を主成分とせるが如く其製作頗る拙劣にして一見直に眞贋を辨別し得べし在留邦人は之を驅除のため韓人等より受取るに際して之を[illegible]し破毀しつゝあり

倭館

星州へ三里、大邱へ十六哩八鎖
金泉へ十哩六鎖

在留邦人 米穀商六戶、雜貨商三戶（外一二の飲食店あり）又憲兵分遣所守備隊等あり

▲作柄 當地へ輸送し來る米穀の主産地は星州、仁同、尙州、洛東、義城の各郡にして此地方作柄は地方韓人及當地在留當業者等の言に據れば各郡中其出來榮へに多少甲乙あるべきは論なきも概して水田は挿秧季に際し雨量十分なりしため遺憾なく植付を了へ其後照り込み十分にて生育頗る良好なりしかば本年は平均昨年より約二割の增收なるべく大豆は風旱害のため昨年より約一割五分の減收なるべしと云ふ

俳句

○吟光小會集

吹抜ける風に骨あり冬木立　一二三
行く友を送りて千鳥聞く夜かな　同
牛返る麓や秋の水走る　草四
六連島風待つ船に千鳥哉　同
何を読す梁山伯や冬木立　同
さびれたる一軒家あり冬木立　部香

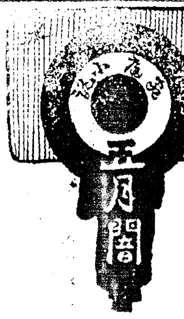
新刊紹介

●人物の修養　スタンフォルド大學總長の原著にしてマスターオブアーツ中村平氏の譯補に係るものなり全項百五十四内容は「大學と人物」「人物の修養」「實用教育」「時間の節約」「日本の希望」「二十世紀の天職」「發災の教訓」等の七項より成る行文平易叙述簡明譯書としては毫も難解苦澁の點なし思ふに人物修養の福音としての近來の良書といふべし（定價五十錢東京小石川原町丙午出版社）

●讀書倶樂部　奇抜な雜誌なり記事有的叙述斬新苟くも讀書家の一讀すべきものなり（一部六錢四號東京神田表神保町同文館）

●明治の青年　内容は論文、文藝、衞生、雜纂の四項に分ち何れも覇氣横溢青年者流に取つての好雜誌なり（一部十錢、三卷十號東京々橋區北紺屋町明治の青年社）

●銃獵界　「全國獵地案内」「臺灣の獵界と名士の狩獵談」は本號重要の記事なり（一部十錢、四卷十號横濱本町金丸銃砲店）



（六十五）
河合柳葉



『左樣でございますね。』
云つて、大山も寸時考へて居たが、
『それでは怎う致しては如何でございませう、只今の清川の樣子から考へまするに、あのまゝには到底棄て置く氣遣ひはございませんから、必然御前に對つて、手厳しい御諫言を申上げるに極つて居ります。けれども御前はいくら清川が涙を流して御諫め申した所で、迚もお聽容れになる理はありませんから、私から御前に密と申上げましてあの清川がお屋敷に居る限りは、若し君子樣にお暇をお遣はしにならない節はあゝ云ふ一徹な男でございますから、必然御親戚へ御相談に及びまして、御親戚方を煩はすやうな騒を致さないとは申されません、然うなりますると、如何に御寵愛の君子樣でも、止むを得ずお暇をお出しにならなきやならないやうに立至りまするゆゑ、若し清川が厳しい事を申上げました時はそれを機會に家令職をお解きになつて、お暇をお遣しになつた方が宜しうございます、清川さへお屋敷に居りませんければ、誰一人何を申上げるものはございませんと、御前からお暇をお遣しになるやうお勸め申しましては奈何でございます然う致しますれば何彼につけて邪魔になる清川がお屋敷に居なくなりまして、萬事に都合が宜しいかと考へます。』
と、奸謀を獻じた。
『なる程宜い所へ氣が注いた、お前の察しの通り必然あの樣子では爲雅に厳しく諫言するに相違ない、非常で爲雅が立腹したやうな風で、直接暇を遣ると云ふやうにすれば、爲雅は無論喜んでするに違ひない、然うなると我々も目の上の瘤が無くなつたやうなもので、[illegible]事が出來ると云ふものだし、殊にお前を家令に取立てるやうに私から勸めるから、ますます都合が好くなる理さ。それではそれとなしにお前から爲雅へ能く其事を云ひ含めて置いて貰ふ事に爲ませうね。』
『善は急げと申しますから、清川が申上げない前に早くお勸め申す事に致しませう。』
と、其まゝ三輪子の室を出て、爲雅の室へ行かんとしたが、長廊下で清川の娘菊野に直と行會つた。
其の京都へ出發する以前は、寧ろ菊野の方から顏を染めながら優しい辭をかけたほどで、女中どもは袖を引合つて眺めた事もあるほどであつたが、些つと挨拶したばかりでサモ餘所々々しく行き過ぎんとするので大山は、
『菊野さん大層お急ぎでございますね。』
云つて、莞爾と其顏を見たが、菊野は至つて眞面目な顏で
『はい、少しお嬢樣の御用で急いで居りますので……』
云つたきり、後をも見ずに行過ぎて了つた。
大山は、非常に失望した如き樣子で其姿を見送つて居たが、
『さては、親父から何か云はれたと、見えるね。』
と、呟きつゝ爲雅の室に行つて、後室の問に答へた事、清川にも一伍一什を打明けた事など、具に語つた後、清川排斥の奸謀を語巧に勸たが、爲雅は其勸告を非常に喜んで、今にも清川が諫言などしたらば言下に暇を遣はさんと言つた。

▲無料紹介欄▼

人事部

●年二十四調劑の心得あり醫院病院の藥局生に雇はれたし [illegible] 永樂町[illegible]丁目三六番[illegible]（一〇三）
●雇ひたし 石鹼製造に經驗あるもの至急入用 氏名在社（一〇四）
●吳服商に多年經驗あるもの雇はれたし年十九 氏名在社（一〇五）
●官衙一の給仕に雇はれたし年十八 氏名在社（一〇六）
●被雇度 鐵道役海軍一等機關兵年廿六歳機械類の運轉取扱へ雇はれたし普通學有韓語に通ず給料多きを不望 氏名在社（一〇七）
鹿兒島縣人有馬氏の住所を問ふ 同縣人（一〇八）
店員入用 薪炭商に經驗ある者數名雇入たし 壽町三丁目今[illegible]商店（一一一）
●雇れたし 年三十九中等教育有算筆健病院會社の受附又は商店の帳場員を望む 氏名在社（一一二）
●雇れたし 年廿六身体頗健職業を撰ばず相當の家に雇れたし 氏名在社（一一三）
●店員入用 保證人ある十六才以上十八才までの人至急入用 氏名在社（一〇九）
●看護婦至急入用 明治町二丁目松岡醫院（一一八）
●女子入用 委細面談 本町六丁目中村齒科醫院
●韓語速成教授 本町六丁目六五韓語速成講習所
崎村君 まゝ御親切なる御言葉厚く御禮申上候 石村生（一一五）
下女入用 望の者は本人來談あれ 氏名在社（一一六）
女中入用 裁縫の心得ある人を求む 旭町一丁目[illegible]所（一二〇）

物件部

●望借家 六疊四疊半各一溫突一間並押込炊事場付の家を借りたし 氏名在社（八九）
賣地 本町八丁目通り地所貳百坪溫突八十八間の建家共至急賣却致度御希望の方は御來談を乞ふ 姓名在社（九八）
賣地 本町八丁目通り地所四十坪溫突十間建家の儘格安にて至急賣却す 姓名在社（九九）
賣地 京仁線南大門停車場近所在上水田四石落安價にて賣却す希望者は至急申込あれ 旭町二丁目京城[illegible]所（一〇一）
便利の場所にして電話の備もあり官衙向き八疊四疊五つ間二階貸間あり電話六五九番に御照會あれ（一一〇）
賄付貸間あり 氏名在社（一一七）
古着 其他御不用品買受けたし 旭町一丁目[illegible]（一一九）
貸間 旭町一丁目便利の場所にて六疊二間二階貸したし望の方は御來談被下度候 旭町一の六十京仁商會（一二一）

清廷の異變

世に志ありて之を實際に行ふ能はざる程不幸なるはなし、余輩は常に清國光緒帝の境遇に對して此感を禁ずる能はず、殊に帝の訃音に接して更に深く之を感ずるなり、余輩の寡聞なる帝に就て多く知る所なしと雖も、帝が親から万機を裁し給ひたる當時の治蹟に顧るも其穩和なる胸中に一種の鋭氣を藏せられたるかを知るに足らむ、然るに西太后の權勢頗る大にして帝の光を蔽ひて所信を行ふ能はざるの境遇となり怏々として樂まざると共に豫て病弱の御身なれば自然政務を見るを懶しとせられ、晩近に於ては萬機は西太后に依りて裁決せらるゝに至りしも、帝が然るが如き壯志は必ずしも万機を西太后に依りて決せらるゝを喜び給ひたるに非ずと雖も、帝の溫和なる性格は强て之を爭ふことをせざりしのみ、其胸中の感慨果して如何にありしぞ、余輩は之を想ふて帝の訃を哭するに於て無限の悲愴を感ずるなり

而して權勢威望清帝國を壓するの西太后亦病を得て重態なりとの報あり、果して事實ならば清廷の動搖紛擾知るべきのみ、既に皇位繼承者として醇親王の子溥儀殿下を舉げて即位せしむることゝし醇親王は出でゝ攝政たるべしと報せらる、之れ電文の儘にして委はしく知る由なけれども光緒帝の訃及西太后の重態は事實なるべし、唯光緒帝が如何なる病氣に依りて崩御せられしや西太后の重態は帝の崩御に何等の關聯なきや否を知る能はざるなり、此間の消息は清廷内部の事情に精はしき者に非ざれば容易に知悉し得ざるなり、溥儀殿下が帝位を繼承し醇親王が攝政たるに至りては未だ俄に信を置き難し、此問題に就ては北京朝廷は恰も鼎の沸くが如き動搖を起しつゝあるならん慶親王一派及其他の親王が此際に於て如何に活動するか袁世凱張之洞等の向背も亦大なる關係あるべし、而して南清の革命黨は之を機として勃發するの形勢なき乎、何れにしても光緒帝の崩御と西太后の重患とは北京朝廷の動亂に次で清國全体の紛擾を釀生するに至らざる乎

皇位繼承問題に就ては我對清政策にも多大の影響あるべく從て帝國の大陸經營上に大關係を生ずるを以て決して輕々に看過すべからず、帝國の滿州經營は直に韓半島の經營に關聯するを以て半島經營者たるものは清廷今後の成行に深き注意を拂はざる可らず醇親王の攝政たると慶親王一派の勢力消長は直に清國の對外政策に表現するに至るべし米國公使及獨逸公使の如きは無論其他の公使は極て敏活なる働きをなしつゝあらむ、最も重大なる關係を有する帝國は必ずや清廷諸臣に力を協せて其動亂を鎮定せしむると共に皇位繼承問題に就て最も適當の繼承者を舉げらるゝならむ乎、余輩は帝國の大陸經營上よりして深く前途の成行に注目するの必要を感ずるなり（十六日稿）

▲皇帝の遺言

北京電報

十三日深夜上諭出づ曰く
朕西太后の旨を奉じ醇親王を攝政とし其の子溥儀を宮中に養ふと是れ皇位繼承の先例に依る遺言なり

▲醇親王の席位

攝政醇親王の宮中席次は今日より諸王の上に居ることゝなれり（十五日發）

▲西太后崩御

東京電報

支那公使館にては昨夜引續き西太后薨去の公電に接し外務省及各國公使館に通知を發せり

▲世と早める

西太后薨去の爲め瀕死の皇帝は世を早められたるなり西太后は十四日午前二時半薨去せらる

▲大倉氏來韓

大倉喜八郎氏は京城なる善隣商業學校開校式舉行のため明日渡韓す（十六日發）

雜報

●副統監の謁見

曾禰副統監は十七日午前十一時長谷川大將及大藤副官を帶同參內皇帝陛下に謁見すべし

●統監の一行

伊藤統監一行は十四日靜岡着十五日名古屋着十六日神戸に向はれたる電報其筋に達したり

●清帝及西太后の崩御に就き

某氏談

清帝及西太后の崩御は未だ公報せられずと雖も最早疑ふべき余地無きものゝ如し、一体清國が列國より重視せられ且つ憲政を布くの準備をなすに到りしも全く西太后の賢明なりしためと清帝が太后の命に從順なりしが故なりしなり、而るに今回帝太后の兩宮が殆んど同時に崩御せられたるは甚だ恐多き事ながら何か不吉の事に原因せずや清の國家に採つて一大事と云ふべきなり躁急なる論者は西太后の崩御は數年前行われたる支那分割論を再び起らしむると云ふならんが之は如何なるものにや勿論前述せし如く清の列國より重視せられつゝありしは太后ありしが爲なれば后無き後に於て后在世の時と同樣なるべしとは何人も思ひ得ざる所也余の知るところを以てすれば太后は今日まで單に列國に重視されたるのみに非ずして國内の野心家にも畏敬せられ居たるなり思ふに是等野心家は太后の崩御と同時に恰も洪水に堤防の破れたるが隨所に起つて思ふ儘の振舞を爲すに至らずとも限らず斯かる時は其結果として列國の干涉は必ず來るべく從て分割論の再燃を見ずとも限らず余輩は此際兩宮の崩御に對し謹みて哀悼の意を表し友邦國民の爲に其大損失を悲しまざるを得ざるなり云々

●聯合内閣組織說

伊藤統監は來る二十日頃歸任の筈なるが歸任の上は直ちに内閣の更迭を斷行すべく其顔振は内閣總理大臣は金允植にして、李容九、金嘉鎭、俞吉濬、張博、南廷哲の各派代表的人物を網羅すべしとの說あり果して事實なりや疑はし

●漢城政客等の行動

俞吉濬氏は近來兎角世の問題となる行動をなし湖南鐵道に就ても名を立てられ今又負褓商團体の結合に就て亦云々さるる彼れは近來余り功名に急にしてあせり過ぎるの觀あり張博亦同樣の傾きあり獨り趙羲淵のみは奔走はするが例によりて余り功名には驅られず金嘉鎭金允植等も老人に似氣なく矢張り權勢に戀々たる氣味あり如何に渠等があせるも今は昔日と異なれば何等得る所ならかんに左りとは頓悟の遲々たるや云々と某政客は語れり

●大韓山林協會の内情

李夏榮氏を中心として設置されたる山林協會は其實殖林を目的とするに非ずして本能寺は伐採にありとの風說あり果して事實なるか之には日本人某々等が策士として李夏榮に附隨し居りて某高官に關係ありとの說あり事實ならば怪しからぬ事共なり

●尹孝定の講話

大韓協會總務尹孝定は本月八日慶尚北道慈仁郡私立學校に於て同會に關する講話をなし更に日韓人の融和を計るべしとの必要なる講話をなせり十二日には大邱普昌學校内に於て同樣の講和をなせり

●鐵道統一と海運界

國有に繼で行ひたる當局者の鐵道統一は適々海運貨物の上に新なる現象を呼び起し來れり例へば敦賀港より輸出する浦鹽貿易品就中其の主要品たる野菜果實類が從來近畿若くは名古屋平原の產出に限られたるもの近時に到り一大變化を來し紀州四國等の蜜柑が神戸より陸揚げせられて敦賀に鐵送せらるゝは云はずもがな岡山の桃を始め太だしきは奧羽の林檎、柿の類が東京を迂回しドシ〳〵敦賀に集中し來るは近時海運業者間の研究問題となるに到れり近時本邦より浦鹽へ到る定期航路は日本郵船の長崎、釜山、元山經由と大阪商船の敦賀基點七尾、伏木、夷、新潟、青森、小樽經由年八回の交通丸及び例の烏敦直航鳳山丸とを有し青森地方の貨物の如き當然同航の期日を俟つべきものなるに却でドシ〳〵敦賀に出て來る所以のものは取も直さず鐵道を藉ることが商機上利便多きが爲にして殊に榮果の如き日用品にあつては需用と供給との間に長時日を費すを許さゞるの致す處にして浦鹽商店の注文は多く敦賀廻しを希望せり若し夫れ八鹿と城崎との聯絡成る曉は山陰貨物の落然として敦賀に集るべきは豫想に難からずここに於てか彼の濱田、境、宮津及び北陸の七尾、伏木、新潟等に浦鹽航海船を寄港せしむるの是非は遂に當業者の忽がせになし能はざる問題たらんとす之れ即ち鐵道の統一が貨物の集中を容易ならしめ物貨の集中は貿易港の制限（少くも事實上の）を見る次第にして素より他方面の港灣にも多少の影響あるべきは自然なりとす

●關東州水產物無稅

關東州沿岸採集水產物の本邦輸入に關しては從來内地稅關に於て從價一割の關稅を徵せられ居りしが漁業家の請願に基き都督府と外務大藏兩省との間に協議せる結果愈左の條件の下に樺太及び露領沿海州方面輸入水產物同樣無稅取扱を開始する旨指令を發せられたり

一、輸入港稅關に提出すべき輸入申告書は關東當該州官廳に於て同州沿海にて本邦よりの出漁船が漁獲採集したる水產物たることを說明したる證明書を添付したるものなる事

一、本邦より關東州に出漁する船舶が捕漁採集したる水產物を内地に輸送の爲一部を利用すべき船舶を指定し當該出漁者又は水產組合より豫て其の船舶の名稱噸數航路船主等を記したる書面を輸入港稅關に提出し其の承認を受けたるものなる事

●滿鐵總裁運動

南滿鐵道會社總裁の職は後藤男入閣以來今尚ほ空位の儘にて事實上後藤男兼任の有樣なるが昨今其總裁たらんとして運動する者現はれ現に某氏の名義を以て山縣伊三郎氏に宛て此際是非共總裁の地位を空ふすべからざる必要あるに就ては芳川顯正伯を之に充つべく盡力を乞ふとの書面を送り又同時に曾禰荒助子に對しても同樣の書面を送りたるものあり其他種々の方法に依り專ら運動中の模樣なるが運動者の魂膽は表面芳川伯を推して兎も角も此際總裁を置くことゝなさしめ然る後種々の口實の下に自ら芳川伯に取て代らんとするものゝ如くなりと言ふものあり

●冬期漁業の開始

關東州の水產組合にては是迄冬期は漁業を休みたりしも本年は之を開始することゝなり目下其準備中なりと

●聯合會決議建議

在韓日本人商業會議所聯合會に於て決議せし事項の整理は既に略完成したるも更に一兩日中に來城の筈なる仁川會議所萩谷書記長を俟つて全部を引纏め實行委員たる京城日本人商業會議所より夫々建議又は訪問運動に着手する筈なりと

●學部書記官の視察

學部書記官李敏應氏及隈谷事務官の一行は一昨日春川原州驪州忠州清州方面へ向け公私學校視察のため出發せり

●豫算協議會

京城居留民團來年度豫算完成に付來る廿四五日頃協議會開會の筈

仁川 米質改良問題

久しく當地穀物輸出商の頭惱を痛めたる米質改良問題に就いては再三同穀物協會に於いて役員會及會員相談會を開き熟議に熟議を重ねたる結果愈前相談會にて品質の改良を企畫すべく當地入津米を檢査することに決したるが其の方法即ち穀物協會獨力を以て之れをなすか或は商業會議所の手を借り以て其の實を舉ぐるやに就いて未だ何等の決議を爲さずして散會し次期役員會に於いて決することゝなりたるが右役員會は豫報の如く一昨日午後一時より同協會樓上に於いて開催せられたり、役員力武、奧田、萬玉、杉本、高杉、田中良助、高田の諸氏は全部出席し又萩谷書記長も出席して種々協議したる其の模樣を聞くに米の品質檢查實行に就いては前會に於いて略ぼ決定し居るが其の主眼たる檢査は何れに於いてなすべきやの問題に就いては最初協會獨立にてこれを施行すべきや初商業會議所に托して其の實を舉ぐるべきやとの議ありたるも結局當理事廳の保護を受け又商業會議所よりは協會にてなし能はざる諸種の事項に就き充分の應援を乞ふことゝし品質の檢査は全然同協會にて勵行することに決し手數料は會員申込みの分は勿論會員外の物と雖實費を以て檢査をなすことに決し近く會員總會を開き其の贊同を受けたる後勵行する筈なりと

●商業會議所會議

既報の如く仁川商業會議所役員會は昨日午後五時より同所樓上に開かれ明治四十一年度會計決算報告案及び穀物改良の件に關し協議する所ありたり

●電話番號の標記

厚さ六分長八寸巾三寸の標札を白く塗り電話番號を黑字に書きて入口の見易き所に揭げられたしと郵便局より電話加入者に通牒せり

●米穀檢查實行

從來本邦にのみ輸出されたる韓國米は近年滿州は勿論遠く西歐に迄輸出さるゝに至り今時益々販賣擴張せらるべきは明なる所なるが今仁川米穀界の現狀を見るに輸出貿易は年々群山釜山等に壓迫せられ只僅かに白米の滿州輸出によりて米穀界の活動を持續しつゝある狀態なり而して本邦輸出貿易の衰頽に傾きたる原因は種々あるべしと雖も今其一大原因として見るべきものは仁川米が群山釜山等の輸出米に比し著しく劣惡なるが爲め漸次本邦米界の聲價を失墜したるに基因せずんばあらず仁川穀物協會に於ては玆に見る所あり同會規則に基づき從前實施したる米穀の檢查を再興し以て其改良を圖り過日來より種々協議中なりしが恰かも商業會議所に於ても此内議ありたるものから意見一致し兩者交涉の結果商業會議所の事業として便宜上穀物協會に實務を囑托することゝなり一昨日穀物協會役員會を開き萩谷書記長も立會審議したるが又々本日午後一時より總會を開き檢查方法につき協議する所ある筈にて多分滿足なる協議を遂け得るなるべく此檢查實行の上は仁川米の聲價を恢復するを得べし

●小學校生の体格

仁川尋常高等小學校の最近に於ける身体檢查成績を聞くに總人員千百〇七人中体格頗強なる者七百二十四人、中なる者三百六十人、弱なる者二十一人にして之を百分率にて示せば強六五、五中三二、七弱一、七二なり日本内地各小學校の夫れに比し强者の多きこと殆んど其倍數なりと云ふ

●度支部員の招宴

度支部々員一同は目下來城中の關稅長を清華亭に招待し午後六時より懇親會を催す由

●在京城大分縣人會

十四日午後五時三十分より在京城大分縣人會を花月樓に開きたり古城會長の挨拶に續き小川幹事の會務報告ありて古城梅溪、熊谷賴太郎、三浦彌導諸氏の會の將來に關する希望演說ありて後會長副會長の改選を行ひたるに會長には古城管堂氏副會長には和田常市氏再選したり了て宴に移り其全く散會したるは十一時前後なりき當日の來會者は七十餘名にて非常なる盛況を呈したりと云ふ

●居留屆數

京城理事廳令に基き居留屆を了へたる者は去月十五日以來合計三千八百六十件に上りたり

●暴徒討伐彙報

京畿道竹山分遣所憲兵二補助員四は十一月四日竹山郡内にて十餘の賊を討ち三を殪し銃三彈藥若干鹵獲す△京畿道汶山分遣所憲兵　補助員四は十一月十日汶山東方約五里に於て約三十の賊を討ち三を殪し三を捕へ銃五雜品若干を鹵獲す

●内相の副統監訪問

内部大臣宋秉畯氏は十六日午後曾禰副統監を訪問せり

●永濱關稅總長の訪問

一昨十五日は白耳義皇帝陛下の御命名日相當に付永濱總長は同國領事を訪問せり

●米國書記官の歸東

在京米國大使館一等書記官チェッー氏は十五日午前八時三十五分南大門發歸東せり

●明石少將歸任

開城方面を視察中なりし明石少將及藥師川憲兵少佐の一行は十五日夜歸任せり

●仁川理事官の入城

仁川理事官信夫氏は今十六日重要なる要件を帶び統監府を訪ひ即日歸仁したり

●上田文學士着任

學部編輯事務囑託となれる同學士は一昨日着任昨日より勤務せり

●大垣丈夫氏歸城

大垣丈夫氏は十四日夜歸城せり

●青年會設置の計畫

有爲の青年團結して各互に品性を陶冶し且つ殖民地の元氣を鼓吹せん爲に京城青年會なるものを設立することを計畫しつゝありしが協議纏り愈々本月下旬發會式をなすと

●辭令

（十四日附）

統監府屬兼法務院書記　從七位勳七等　井上文司
任理事廳副理事官敍高等官七等

公人私人

▲柴田虎太郎（鎮南浦農工銀行支配人）十四日入城山本旅館
▲光市次（海州財務官）十五日歸任
▲上田榮次郎（農學士）十五日歸任
▲中尾丑吉（陸軍會計監督部三等主計）十五日入城不知火旅館

●近事片々

▲清帝　崩御に依りて北京朝廷は非常の騷ぎを來たせるものゝ如し前途の成行や如何
▲西太　后亦薨去せられたりとの電報來る果して事實なれば清國の紛擾益々大ならむ
▲皇位　繼承者は醇親王の子溥儀殿下と確定せるが如く報ぜらるゝが果して然るにや
▲此機　擾を機として革命黨は一齊に起り來らざる乎虎視眈々たる南清黨の舉動如何
▲帝國　外務省は此異變に對し如何なる態度を採るべきか北京駐在の各國使臣は如何
▲醇親　王の攝政に就ては各國は如何なる態度を以て之に對するか玆大に注目すべし
▲醇親　王の攝政に對して端郡王や慶親王や袁世凱や張之洞や馬玉昆やの擧措は如何
▲恐ら　くは玆に一大暗闘は行はるゝならむ之に乘じて革命黨に乘ぜらるゝ恐なきや
▲無論　革命黨の力微にして北京朝廷を仆すの憂なきも内亂は或は免れざるならん
▲内亂　は清國政府の最も恐るゝ所之を端緒として諸種の匪亂勃興し來るべければ也
▲今尙　擾亂を唱ふる蠻民少なしとせざれば之が爲に再び北清事件の如き事なくは幸
▲匪亂　の起る度每に外國人に對して亂暴することは彼等の常也之れ清廷の恐るゝ所
▲清廷　今回の異變は唯に皇帝の崩御西太后の薨去とのみ見る可らず禍機玆に伏せん
▲宋内　相輓近頗に李首相と和協せんとして慇懃を極むるも李首肯せずとは眞實なりや
▲李完　用は近來宋氏に對して壓者たるの觀ありて宋氏頻りに之が爲に苦衷すと異乎
▲一低　一高兩氏の勢力に伸縮あるも宋は到底李の敵に非ずとは專ら坊間の取沙汰也
▲何故　か大智者と自ら誇れる宋氏近來大に煩悶しつゝありと夫れ何に原因するぞや
▲最も　信任せられ居る統監公の歸任近づきて却て煩悶するは些とロヂックに合はぬ
▲世人　は統監公の歸任によりて喜び居らんと思ふに倍も世は表裏の相違ある者なり
▲聯合　内閣組織說もあるが思ふに春間の風說に過ぎざるべし若し出來れば御慰み也
▲李容　九南廷哲等妙なる顔觸れもあるが要するに或一の想像に過ぎざるべしと思ふ
▲果し　て聯合内閣出來れば多少人心を新にし施政上効果あらん[illegible]



探偵實話 奇縁（一）　ひて子

十二の帝陵低ふして見へず、黒風白雨南都に滿つと、階下に當つて聽ゆるは、閑へ立つた坂田の聲だ、彼れの吟詠は凛さして痛切に感じる、いつ聽いても氣持が好いと、菊地顧三は思つて居た、聽て階段を踏鳴らして、坐に戻つた阪田保は

「君實に闇で雪が盛んだ、痛快、悲壯、君を送るに恰好の晩だせ………」

「然うか、漸々雪と成つたか」

[illegible]るので、即ち菊地顧三が、奉職の某局を免職の結果、郷里へ一應歸るのを、其同僚の阪田保が是れを送るの小宴は、敢て何等の不思議は無いが、菊地は元來局内で敏腕の聞が高く品行も亦方正の方で在つたに拘らず突然免職の理由に就ては親友の阪田が怪しむも無理は無い、理由と云ふのが不思議である、に其免官を唯々諾々と受けて居る菊地が甚だ不思議に見られる理由は彷聞、もちと大抑だが、風評に依ればだ、局長の與樣と關係がある密通して居る夫れが爲つとか怪しからぬ我菊地顧三は、腐つても鯛だ、零落した今日でも斯かる汚名の下に甘んじて此地を去る夫れ程の意氣地無では、よもや有るまいが亦親友としての自分の觀察は斷じて斯かる醜行は無いと信じる、で此件に就ては屢々菊地に打明け話を迫つたけれ共いつも微笑して答は無い今夜は既に此地を去るのだ怎かして話させたいと阪田は頻りに水を向ける

「ね、菊地君　彼の局長の細君が元東京で藝妓の時分君は知り合ひたと謂ふが其當時御親類筋じや無いのか………」

例に依つて微笑で答へた菊地は此時一寸眼を閉して考へたが冷へた盃をぐつと飲干して眉を上げた

「阪田君、君は此朝鮮で出來た友とは思はん、克く今迄心切にして呉れた顧三更めて別れに望んで禮を謂ふ、で實は語るまいと思つて居たが彼の局長の細君と、僕とに於ける奇しき運命を今話そう併し其前に八日と謂ふ日に注意を拂つて置いて呉れ」

佛果で所謂因縁めいた語り口に、思へば今日は極月八日、夫れが怎したと謂ふ眼で坂田は首肯いた座を外づさんとする藝妓を止めて、菊地は爲渡、緒口を上げた

「君もまあ聽いて置くさ忘れもしない六年前一月の八日の夜、丁度今夜と同じ樣、雪の烈しい晩だつた場所は東京の山の手で、市ケ谷八幡の石段下

●親不孝の倅　……老母の心配……

愛知縣海東郡津島町津島九百三番地加藤寅[illegible]弟加藤國次郎なるものは本年四月中京都市下京區六角通り堺町森島孫一郎方に商業手傳ひとして奉公せしところ餘り面白きこともなきより韓國に渡り濡手で粟の掴み取りを遣らうと例の夢のやうな考へを起し四月三十日の夜無斷に森島方を飛び出して竟に渡韓したるもの丶世の中のことは兎角自分の思ふ通りに往かず存外甘い汁も吸へぬ所より當地に來りいろ〳〵な商賣に手を出せしも思ふやうに行かず止むなく平壌に赴き鐵道構内にある飲食店津田儀左衛門方に同居し居りしが國次郎の郷里には今年八十歳になる老母ありて雨につけ風につけ大きな子供のことを心配し之までも再三歸國を促がし來りしも不孝の國次郎は手紙一本の返事もせず其儘に打過し居るのみならず老母は今回重病に罹り責ては存命中に一眼遇つて言ひ遺したき事ありと電報にて知らせ來りしにソレにさへも返事をなさゞりしより此程見に平壌警察署へ郵便にて本人に皈國すべきやう說諭ありたき旨その國元より願ひ出でたりといふ國次郎よさるにても一時も旨く歸國して老母に安心さすが人の道ぞかし

●店員評判記

慶田組京城支店員　守屋柳治氏

守屋柳治氏は現今慶田組京城支店の次席を占めて居る有爲の俊材で生る生國は茨城縣水戶市夙に郷里の中學を卒業し後笈を負ふて東部に遊び早稻田大學に入つて政治、經[illegible]銀行に身を委ね敏腕の名大に同輩を敬嘆せしめた、三十八年横濱アールッールエルステッシヒマン商會に轉じ爰でも亦大に俊才の譽を博した、三十九年志す所ありて渡韓し直ちに慶田組に入つたが其の人に勝れた才幹と智能とは幾干もなくして組主慶田氏の注目を惹き拔擢されて今の地位となつたのである、氏人と爲り頭腦堅確精力旺盛事に當つて毫も倦色を見ない蓋し當世稀なる少壯事務家である

慶田組京城支店員　清水重雄氏

氏は本年漸く十七才の青年である、而も此の如き青年に似合はず極めて意思が堅固で一點浮華の跡が無い、特意とする所は數學で計算の事務なら如何なる複雜な事柄でも敏速明截に處理して毫も過ちないといふ珍らしい才能を持つて居る、生れは鹿兒島縣夙に土地の商業學校に業を修め渡韓して慶田組に入つたのが四十一年八月である

慶田組京城支店主任　新原茂氏

新原茂氏は慶田組京城支店の主任である、氏は明治十五年鹿兒島縣薩摩郡東水村に生れ三十五年三月同地の商業學校に業を了へ次で同市永井組に入り專ら樟腦の販賣に從事し十二月に至り一年志願兵として歩兵第四十五聯隊に入營し三十八年六月歩兵少尉に任せられ同時に正八位勳六等に叙せられた、卅九年渡韓し直ちに慶田組に身を委ねたが其の非凡なる事務の才と卓絶せる材幹とは瞬く間に同輩を凌ぎ終に京城支店主任の地位を占むるに至つたのである資性溫厚にして覇氣に富み而も謙虛闊達氣宇高朗蓋し當世得難き好事務家である

●珍らしき妙齢の女醫　……千三百餘名中唯一の女……

四十八年度より開業醫たらんとする者は專門學校及び大學出身ならざれば許されざる事となりしより夫等の學校出身ならざる醫學生は何れも夫までの内に免狀を獲んものと大焦燥に焦燥る爲め年一回宛文部省に擧行せらるゝ開業試驗志望者は今年の如きは一千三百餘名（女子約八十名）の大多數に上りしが此の多數中學說實地共に及第して立派に醫師の免狀を得たる者は僅に五人に過ぎず加之も其中女は唯だ一人にして其も本年漸く二十歲なる妙齡の女學醫生を見たるは頗る異彩を放て此榮擧を荷ひたる婦人は廣島縣賀茂郡西高尾村溝口富原一の四女富原ユク子（二十）と云ひ三十八年の春十七歲にて廣島なる私立廣島高等女學校を非出度く卒業したる後女醫たるべき希望を抱き直ちに上京して牛込區市ケ谷河田町なる東京女醫學校に入校し其の寄宿舍に入りたるが爾來四年間の勉學を積みたる末遂に九月中同校前後期を卒業し直に開業試驗に應じたるに男子にてすら五六回以上も失敗する者多數なる中にユク子は併も二十歲の妙齡にて唯一回の受驗を以て學說實地共に難く及第したりと尚ユク子は衣服等は悉く田舍より送り來る手織木綿等にて滿足し襦袢一枚半襟一懸けも自ら買求めたる事無く其他髮飾等も一切質素を旨として一意勉學に餘念無かりしといふ

▲新年號附錄▼

追々と新年も近寄つて參りました、例に依つて各新聞雜誌社が新年附錄を調製する爲め之が趣向と意匠とにつき今より苦心を重ねて居りますのは毎年何所も同じことであります却說本紙は此の來るべき新年に際して何のやうな附錄を調製して愛讀者諸君の眼を喜ばしめやうかと種々樣々と考案を廻らした末、双子六を添付しやうといふことに決定しました、申すまでもなく、双子六は新年に於ける家庭の娛樂法としては最も趣味に富んで居る面白い遊戲であります、而も之が意匠と趣向とは從來有り振れたる陳腐のものではなく極めて嶄新にして奇拔なものであります、つまり之が內容を一言に申しますと京城の各商店、銀行、會社、旅館、料理店（個人も含む）等を順々に並べ本社を振り出しとして振り始むのであります、思ふに之れ唯に趣味ある娛樂法たるのみならず一面には京城、仁川、龍山の案內記とも見るべきものであります若し夫れ如上の各商店、銀行、會社、旅館等に於て一朝之れが双子六中の者となつたならば其の廣告の效能は偉大なるものだらうと思ふ廣告の締切は十二月五日限りです

▲新年號附錄▼

●女房溝に落ちて死す　……泥醉の結果（か）……

一昨日午後二時頃西部光熙門[illegible]五十二統四戶金光生方李聖泰は自分の妻が昨夜外出したるまゝ歸へつて來ぬので諸處知人の宅に尋ね行き見たるも更に見當らず已むなく歸途につき訓練院附近にさしかゝるや同院裏手の溝の中に女の死体ありと其處らの子供等が騷ぎまはつてゐるより聖泰は若しやと思ひ馳けつけ見れば紛ふ方なき妻の姓女なるより聖泰は一方ならず打ち驚き光熙門派出所へ訴出たるより銅峴分署より警部及び警察醫臨檢せしが聖泰の言ふ處によれば本人は平素非常なる好酒家にて今までも度々酒を呑んでは溝に打ち込みたる事などありたれば此度の死も多分酒に醉つて此所へ落込み斯る非常の最後を遂げたるものならんと姓女年は六十七死体は聖泰に引渡されたり

●花月のをかよ　病氣全快して皈りたる同妓は昨日再び花月より現はれたり此段ゴヒイ●筋へ通告す

●ドロボ捕まる　東部觀芹橋六統一戶洪惠億（二十）なるは本年三月南大門外新倉瓢なる大工々場にて大工の洋靴一足を盜み之を一圓二十錢にて某韓人に賣却し四月牢頭大韓醫院にてトタン板三枚を窃取し之れ又一圓六十錢にて義洞派出所前にて某韓人に賣り拂ふなど其他數個所にてチヨコ〳〵窃盜を働ける男なるが一昨日東部署の巡査の爲め宅に於て捕はる

●金を釣らんとす　南部水票橋通玉轉店內田藤次郎方にて一昨日午後七時三十分頃住所不定の朴福容なるものが店に置いてある金入を竹の先きにて引き寄せ居るを家人に見咎められ掴まつて銅峴分署へ引出さる

●窃まれた物を買ひ戻す　東部蓮僖坊果朴元根（四十）は去る十月十日東部長慶橋楠物園に於て旭町三丁目椎原森太郎の所有に係るトタン板二十枚を窃取し其の足にて東部果洞金景大なるものに十圓にて賣り飛ばせしを此程東部警察署巡査の爲めに發見されしが結局森太郎は金五圓にて景大より買ひ戻したりといふ

●窃んだ自轉車を他人に貸す　南部貢[illegible]町二十四番地井出三郎は本月四日午後八時牢頭店先きにおりし自轉車を何者にか窃取されたれば其の旨銅峴分署に屆け置きたりしに爰に西小門外館井洞韓人大工職權春成（二五）といふが右の自轉車をば我物顏に乘り回はし居りしを知人なる南部山林洞洪鳳鉉方に同居する車基俊といふが見て參りしがりて俺に二三日借して呉れといひて諸所方々を乘り回はし居る處を十四日梨峴派出所巡査のために發見され引致されたるが結局讓より借りたるものと判り[illegible]されたり

●葬式はだめ　中署中谷六十三統六戶米商李承九（三十）及び同鐘路果物商金泰殿（三十）の二人が東部管內廣藏會社市場にて葬式の衛を使用して居るを昨日正午東部署の巡査に認められ引致されたるが大に目玉を戴りたり

同可娛欄（廿五）　魚友痴史

●俚謡正調●●●

▲初　雪
に眼に懸るは今日初雪の
顏貌は紅葉のうす化粧

▲初　氷
かたい様でもまだ初つ氷
解けて濡たい水ごゝろ

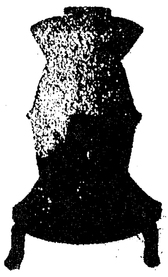
▲三寒四温
寒い憂目を三ツ〳〵の辛抱
あとは四ツ日の暖かさ

◉天氣豫報（自十五日午後六時至十六日午後六時）

晴後曇

十五日午前六時各地氣象概況
全部高氣壓に被はれ臨々の風吹き一般に晴天なり





落語

猫久（二）

會語樓小さん口演

熊さん又勝で神棚の前にピッタリ座つて拜んで居ります図より裏店は路次口の狹い所ですから向ふも矢張り職人で夫婦暮しの者が居りました字名をガラ熊といふ奴で餘り落付いた男でもないど見へて漸くお目出度いといふ譲に延氣な夫婦で小三間樣頓珍齊勢のない膽臟の少ない長命をしさうな先實の男で血の循りの少し間違つて居ります此咄なら金婚式の嗣に合ふだらうといふ面白い男夫婦で猫久の家の樣子を始めから突然見て居りましたが飛出して之を留めやうともいふ容もなく猫久の飛出して仕舞つたの後を見て

熊「オイ年前然うゲタ〳〵笑ふなつてことよ向ふの猫久の嗅アといふもなア何うも餘程恐つてるなア、夫れも宜いけれども乃公は何うも猫久の腹を立つた面を始めて見たが何うも怖い面アしてゐたなア

女「本當に猫のやうな顏をして夫れより彼の神さんの……

熊「オイ〳〵手前ダタ〳〵笑ふなつてえとよ向ふ前で知れめや能くねへ

女「お前だめて笑つてるぢやないか

熊「乃公は男だから少しや笑つたつて宜いや併し彼の神さんは余程變つてるなア

女「猫久の神さんの變つてるの彼今始つたことぢやないやね

熊「併し彼の位好い女は無へなア髮をチャンと結つて良い着物を着て白粉を着けた好い女は澤山あるが猫久の嗅アなんぞは裏店に住んでボロ〳〵した装をして髮も結はず夫で好い女だから彼れが真から好い女だ天然自然の自然薯見たやうな好い女だ夫れだから此町内でも評判だ此十町四方に彼の位好い女は澤山無へだらう

女「お前なんぞは面さへノッペリして居りや好いんだと思つてるだらう好い女なら好い女で宜いから猫久の神さんを澤山誉めてたやんなさい何うで妾は多福で誠にお氣の毒樣

熊「然んなことア何うでも宜い

女「何うでも宜いちやない考へて御覧此長家は七軒の交際だが明ける元日から暮れる大三十日まで猫久の嗅ア位五月蠅い奴はありやしない

熊「何にが五月蠅いんだ

女「毎朝起きて三百六十五日の間顔を見るとお早うございますといふし

熊「ウン

女「お天氣が好けりや好いた天氣でございますといふし

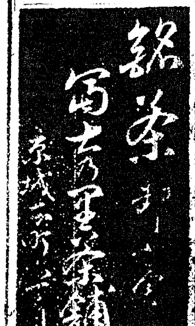
熊「ウン

女「雨が降りやお鬱陶しうございますといふし

熊「ウン

女「風が吹きや風立ちましてと本當に始終五月蠅くつて仕樣がありやしない





●新聞料　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲壹ヶ年前金四圓拾參錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久馬太
發行所　京城新聞社　京城日本町四丁目